

c. プログラムの基本理念

上記の調査結果や理論的な枠組みの検討から生み出された子供のプログラムの基本的理念は下記の通りです。

- 子供が実際に抱える問題を対象にすること、
- 学校の宿題のようにはならないこと、
- 学校や病院の施設では開催しないこと、
- 楽しみや遊びと真剣な演習の組み合わせとすること、
- それぞれの演習には正解はなく、いいとか悪いとかいうのではなく、子供の気持ちに触れるようにし、否定的と肯定的な両方の見方ができるようになること、
- 病気をもつことについての怒りの感情を子供が表現できること、
- 病気をもつことで生じる問題と思春期だから体験している問題の区別ができるようになること、
- 頭で考えるのではなく気持ちにスーと入っていけるように、言葉の使用を最小限にして、絵だとか詩やカード、アートを使うこと、
- ワークショップを終える時には参加している子供がハッピーな気持ちで終わられること、そして、翌週学校で友達に週末何をしたと聞かれたときに、ワークショップに出かけていたというのではなく、写真取るのを学んだとか、アフリカ風のドラマを学んだとか友達に話せること、
- ファシリテーターは参加者と同じくらいの年の人によること、
- 大人の世話人はワークショップの中には入らないで外で待っていること

マニュアルの最初のバージョンを使ってワークショップを実施し、参加者やファシリテーターのフィードバックを受けて改善していきました。さらに、いじめや兄弟姉妹のテーマを取り入れたということでも改訂し、現在のバージョンまでには8回の改訂をしています。